



地球温暖化寄付研究部門が開設されました

2008年10月1日付けで、株式会社ウェザーニューズ社の寄付により、千葉大学環境リモートセンシング研究センター(CEReS)に地球温暖化寄付研究部門が開設され、寄付研究部門教員として石橋博良(客員教授)、長康平(助教相当)の両氏が着任しました。従来の5つのCEReSプロジェクトに加えて、この寄付研究部門が中心となって下記の第6プロジェクトに関する研究をCEReS専任教員と協力して推進することになります。なお、この研究部門の設置期間は平成20年10月1日から平成23年3月31日までとなっています。また、客員准教授の公募についてはCEReSのWebサイト <http://www.cr.chiba-u.jp/kifukenkkyu.htm> を参照してください(公募締切は平成20年11月10日です)。

CEReSプロジェクト6「地球温暖化と気象・海洋情報の活用」では、次のような内容の研究を行っていきます：

概要：地球温暖化の影響が顕在化する中で、温暖化の現象の解明・対策・適応を目標とした研究領域において、衛星リモートセンシングと気象・海洋情報を活用した研究活動を行う。IPCC報告で人間活動を起源とした温室効果ガスの排出が温暖化に影響を及ぼしている可能性が指摘されて久しい。しかし、地球温暖化の影響を監視し、現象を解明する場合の問題点は数多く存在する。同時に、温暖化の影響を把握して対策・適応を研究することも重要な課題であり、研究目標として急がれる。本プロジェクトでは、とくに温暖化の対策・適応を、主として交通と気象との関連を中心に研究するとともに、リモートセンシングによる環境



研究と社会のつながりの強化を図る。

具体的な研究テーマとして現在あがっているのは、次のような項目です：

- (1) 気象衛星による放射収支等の大気パラメータの研究
- (2) リモセン(マイクロ波)による路面凍結センサーの開発、
- (3) 千葉県及び関東圏における衛星情報の活用(One To One型プラットフォームの開発)、
- (4) 北極海航路の開拓と開発研究、
- (5) 高精度全球気象衛星データの作成と活用方策、
- (6) 地球温暖化適応・対策への気象海洋情報の活用方策
- (7) 小型衛星による地球温暖化・災害情報の提供方策、
- (8) その他、リモートセンシングによる環境研究と社会とのつながりの強化につながる研究。

(文責：久世宏明)

10月1日付けで寄付研究部門に着任いたしました。

いしほしひろよし
寄付研究部門客員教授 石橋博良



10月1日付にて客員教授として寄付研究部門(「地球温暖化と気象・海洋情報の活用」)教員に着任しました。

一昨年、千葉大学の経営協議会委員を務めるなか、産学連携の活動を進めようとの意図のもと、本センターと株式会社ウェザーニューズとの間の共同プロジェクトの話を持ち上がり、これを立ち上げてまいりました。

気象サービスは交通(海運業、航空業)との兼ね合いで発展してきた歴史があります。従って、この“交通気象”のやりぬきを是非、産学連携で成功させたいと思っております。

また、先の共同プロジェクトの他のテーマにつきましても、他プロジェクトの皆様との連携や共同利用研究の枠組みなどを通じて、本研究部門のテーマとして継承できればと思います。

産学連携活動というものは、言葉は聞こえが良いですが、実際はなかなかものにならないケースを多々見て来ました。大切なことはリーダーシップです。ひとり人がリーダーとなってプロジェクトのオーナーとなれば、必ず多くの成果を出す事が出来ると信じております。

皆様の御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(文責:石橋博良)

おさこうへい
寄付研究部門教員 長康平



一昨年に始まりました、本センターと株式会社ウェザーニューズとの間の共同プロジェクトへの参加を契機に、これまで、リモートセンシング技術の実利用に関する調査・研究に携わって参りました。

また、昨年は共同利用研究も採択され、本センターでの研究の機会もいただきましたが、このたび、寄付研究部門の設立に伴い教員として着任し、研究に専念できる機会をいただいたことで、これまでの研究テーマをより深く探求できるものと期待しております。

主たるテーマは、マイクロ波散乱計測による路面雪氷の観測に関するもので、リモートセンシング技術の冬期高速道路管理業務への応用を目指し、局所観測のためのマイクロ波による雪氷センサーの開発や合成開口レーダによる広域観測などの研究を計画しております。

これまでの民間企業での実務経験も活かしつつ、本センターの研究活性化と研究成果の社会還元にも、少しでも貢献できればと思っております。

御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(文責:長康平)

韓国 International Symposium on Remote Sensing(ISRS2008)への参加

2008年10月29-31日に韓国、大田(Taejeon)のKIGAM(韓国地球科学鉱物資源研究所)で韓国リモートセンシング学会(KSRS)と Environmental Monitoring from Space of East Asia(EMSEA)共催の International Symposium on Remote Sensing(ISRS2008)が開催された。口頭発表 60 件、ポスター発表 53 件の計 113 件の発表があった。参加者数は 240 名程度で、日本からは 16 名、台湾からの参加者は 15 名であった。

CEReS からは建石、梶原、Jalal Amini(外国人研究員)、Merna Baharuddin(大学院生)の4名が参加した。建石は招待講演”Global Land Cover Mapping”を行い、韓国リモートセンシング学会と日本リモートセンシング学会との協力についての会議を行った。梶原は多角観測によるバイオマス推定に関する口頭発表を行った以外に EMSEA のメンバーとしてセッションチェアを務めるとともに若手研究者の発表評価も行った。Jalal Amini は SAR の speckle noise に関して、Merna Baharuddin は円偏波 SAR に関する口頭発表を行った。

ISRS は韓国リモートセンシング学会の秋の学術講演会に相当するため、韓国人学生に対しても英語で発表する機会を与えている。韓国人学生たちいずれもよく発表していた。開催地の Taejeon はつくばを真似た科学都市であると共に温泉でも有名である。宿泊したホテルにも立派なスパがあり、朝から多くの人々が利用していた。

(文責:建石隆太郎)



左から KSRS の Choen Kim 会長、Merna Baharuddin、Jalal Amini